

地下水および雨水流入対策の現状

2018年3月1日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

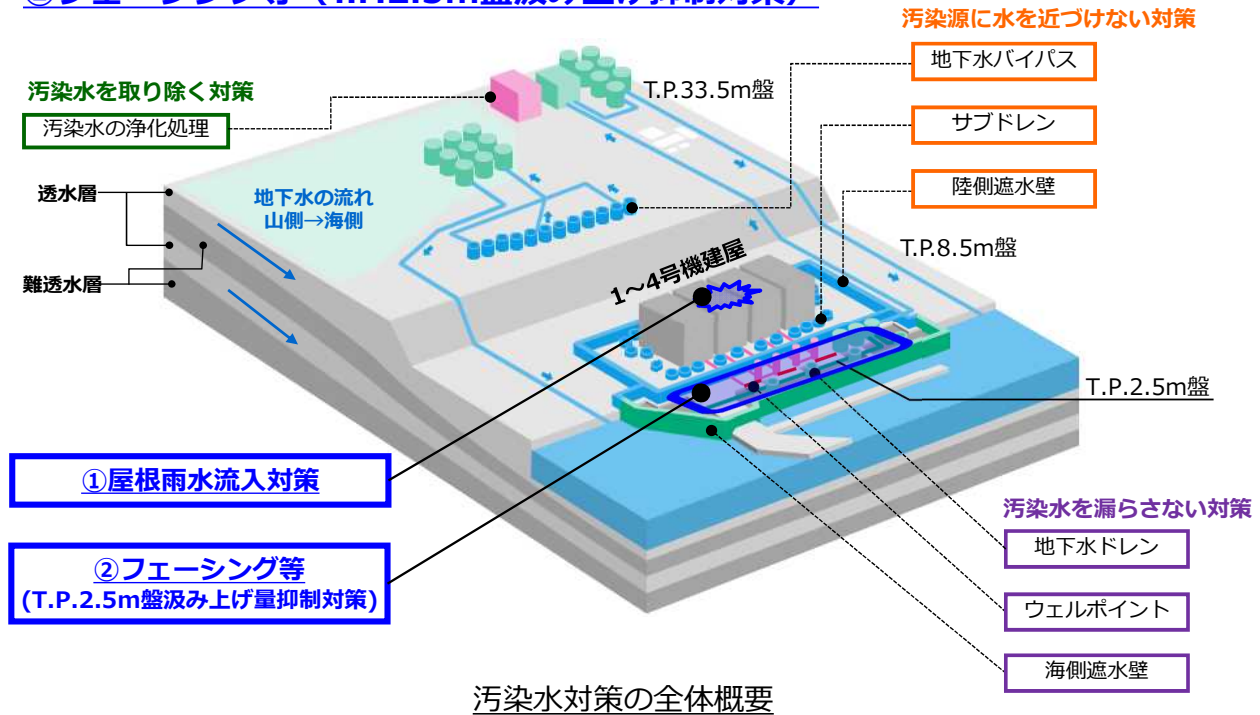
屋根雨水流入対策・フェーシングの計画概要

屋根雨水流入対策・フェーシング

これまで主にご説明してきたサブドレン・陸側遮水壁等の地下水流入対策に加え、現在実施中の次の対策について、今後の計画をお示しする。

①屋根雨水流入対策

②フェーシング等（T.P.2.5m盤汲み上げ抑制対策）

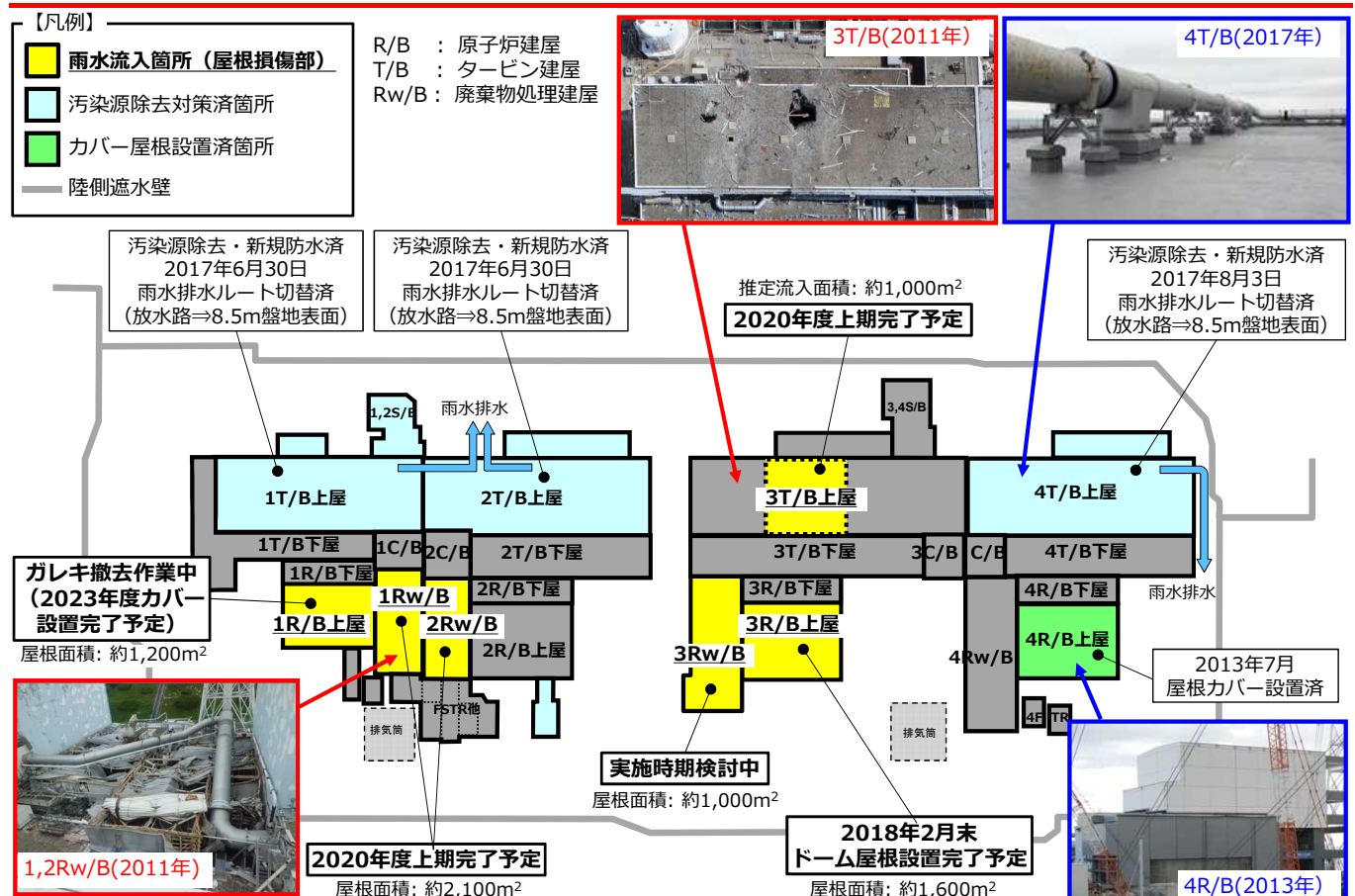


TEPCO

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

2

屋根雨水対策状況（全体）



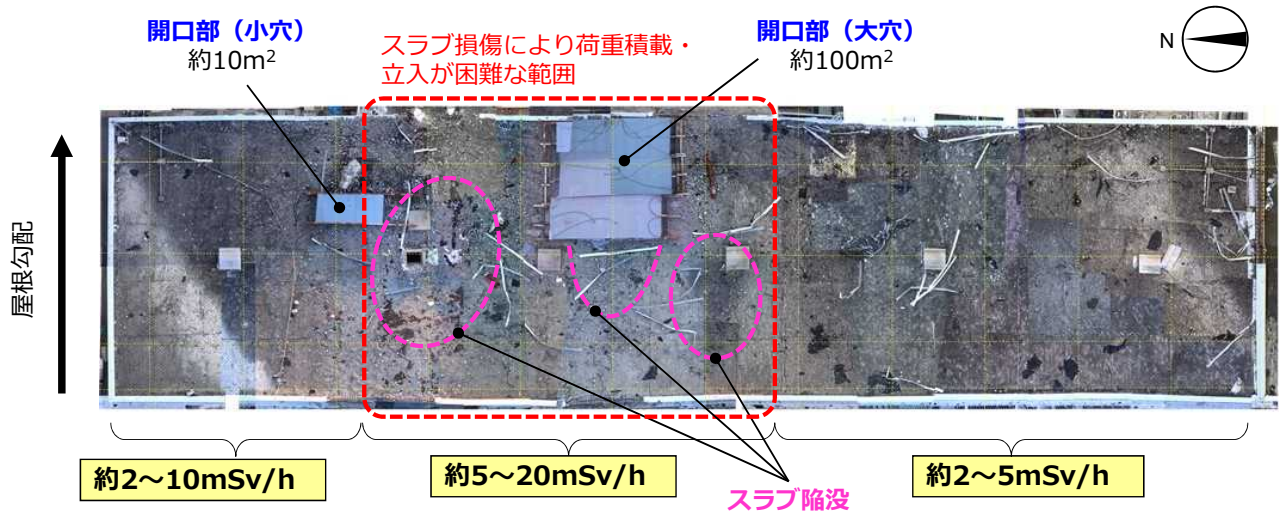
TEPCO

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

3

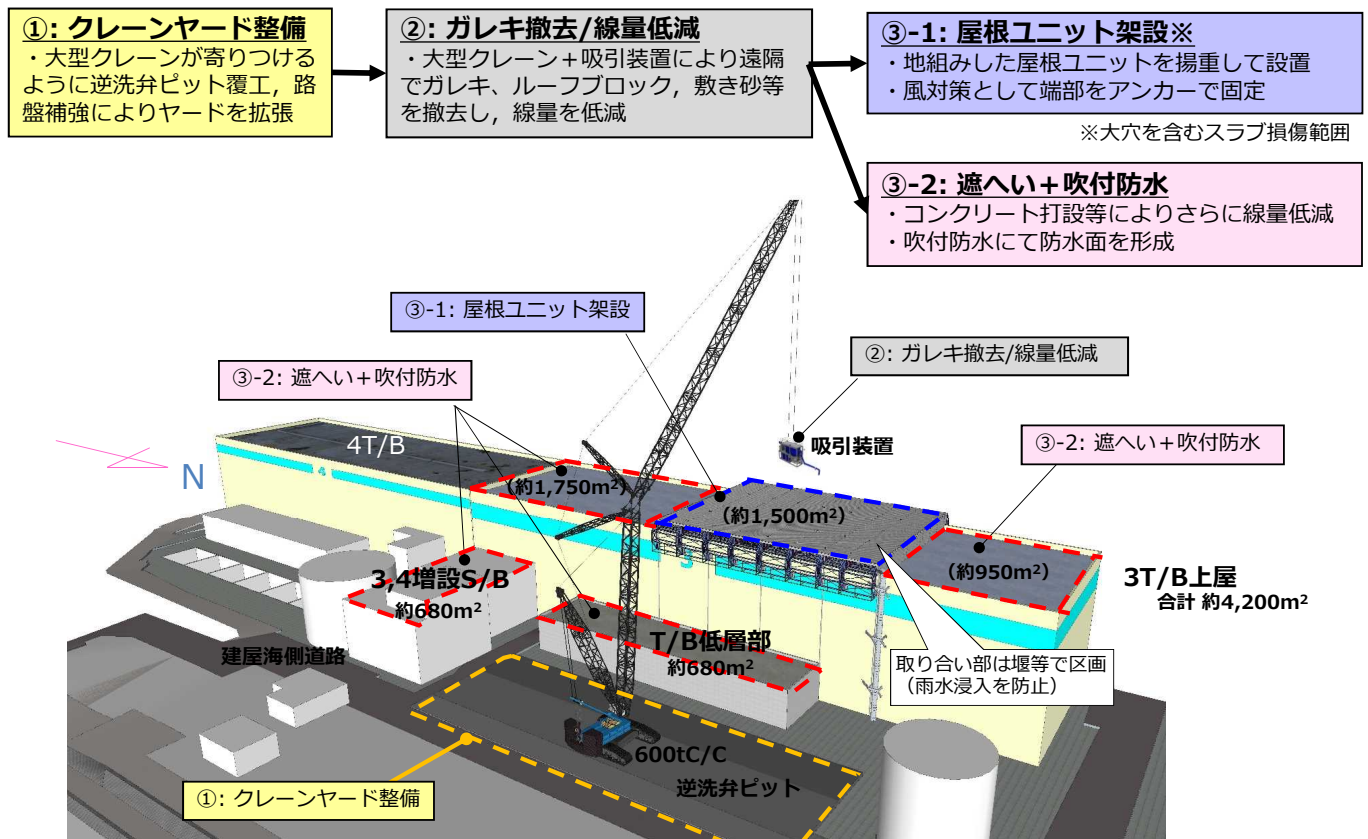
屋根雨水流入対策（3号機T/B）

- 屋根に大小2箇所の穴が空いている。（推定雨水流入面積：約1,000m²）
- ガレキ堆積により全体的に高線量，中央部はスラブ陥没により積載・立入が困難。
- 大型クレーン無人化施工によるガレキ等撤去（線量低減）後，開口部への屋根掛け等により2020年度上期までに雨水流入対策を行う予定。
- 大型クレーン寄付きのため，先行してT/B海側ヤード整備に2018年度上期着手予定。



3号機T/B屋根の状況

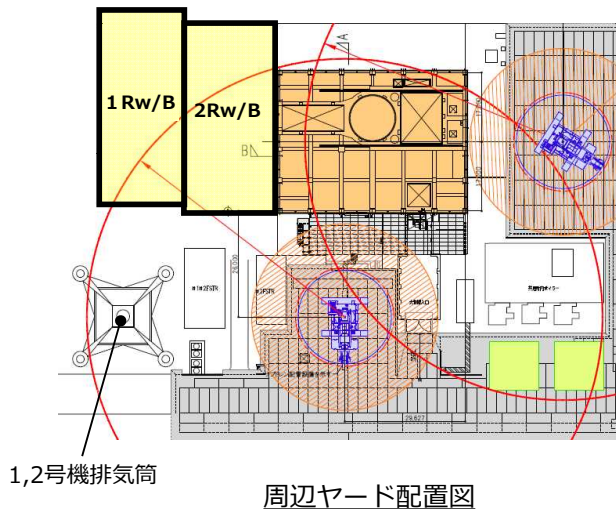
屋根雨水流入対策（3号機T/B）



3号機T/B屋根対策イメージ

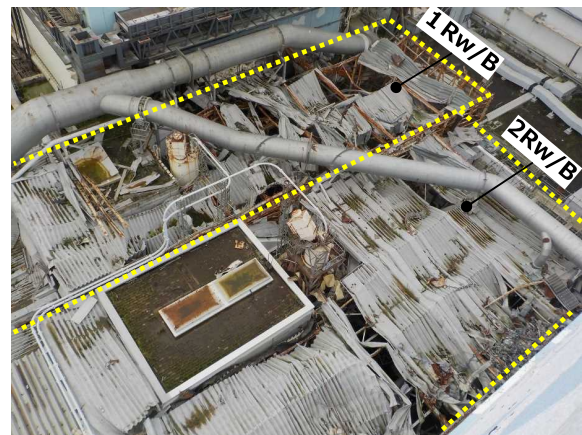
屋根雨水流入対策（1,2号機Rw/B）

- 鉄骨屋根が大きく損傷し、雨水が流入している。（屋根面積：約2,100m²）
- 大型クレーン無人化施工による鉄骨ガレキ撤去後、均しコンクリート+吹付け防水等により雨水流入対策を行う。
- 1,2号機排気筒解体を優先して進め、その際に整備するヤード・大型クレーンを活用して2020年上期までに対策を実施する予定。



2F(屋根下): 約1~8mSv/h※

※今後詳細調査予定



1,2号機Rw/B屋根の状況

屋根雨水流入対策（3号機Rw/B）

- 屋根が全面的に損傷、ガレキ堆積等により高線量。（屋根面積：約1,000m²）
- 大型クレーン無人化施工による敷き鉄板・ガレキ撤去後、均しコンクリート+吹付け防水等により、雨水流入対策を行う。
- 周辺工事（3号機使用済燃料取り出し、1,2号機排気筒解体、2号機R/B下屋等汚染源除去対策等）と作業ヤードが干渉するが、並行して実施する計画を検討中。



3号機Rw/B屋根の状況

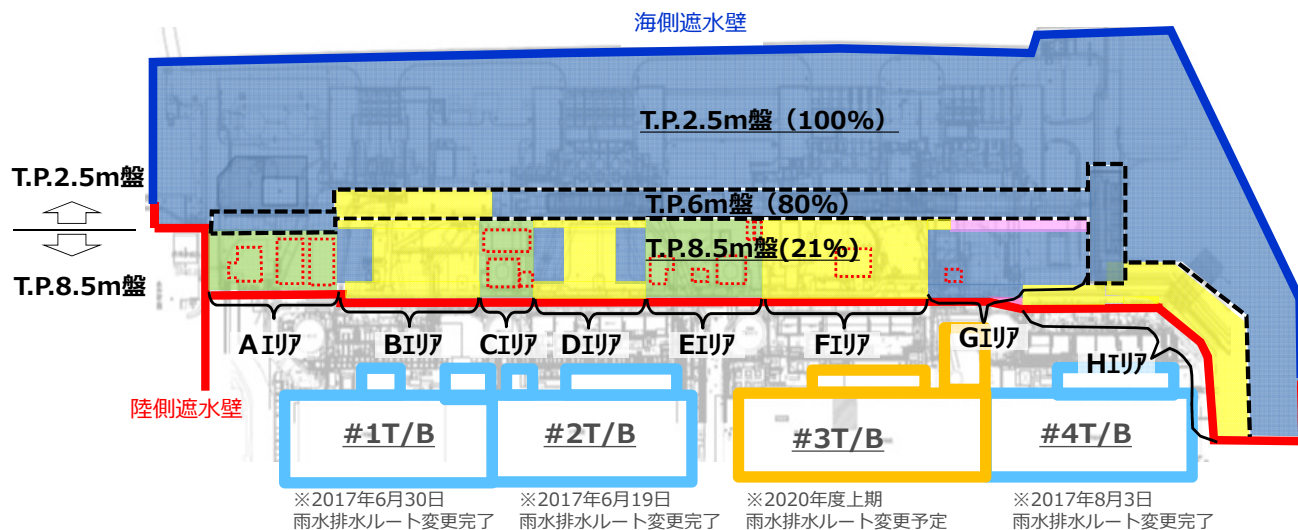
フェーシング等（T.P.2.5m盤汲み上げ量抑制対策）

● フェーシング等（T.P.2.5m盤汲み上げ量抑制対策）

- ① T.P.2.5m盤，6m盤，8.5m盤のフェーシング・カバー掛け
- ② T/B屋根の雨水排水ルートの変更
- ③ 目地止水・クラック補修等の保全を適宜実施

フェーシング・カバー掛け凡例

- : 施工済(2018.1末)
- : 2017年度完了予定
- : 2018年度完了予定
- : 2019年度完了予定
- ⋯ : 既存設備（建物、タンク等）



フェーシングエリア配置図

フェーシング等（現場写真）

■ 既存構造物，電源盤，配管類が密集するエリアの状況



Cエリア



Eエリア

スケジュール

対策区分	対象建屋	2017年度	2018年度		2019年度		2020年度	
		下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
屋根雨水 流入対策	1,2号機Rw/B	工法検討、設計		1,2号機排気筒解体作業（優先） ←-----→ 瓦礫撤去、防水、排水ルート構築			完了	
	3号機T/B上屋	工法検討、設計	ヤード整備、クレーン改造		瓦礫撤去、防水、排水ルート構築		完了	
	3号機Rw/B	3号機使用済み燃料取出関連工事 2号機R/B屋根保護層撤去工事 工法検討、設計	1,2号機排気筒解体作業（優先） 2号機R/B下屋等汚染源除去対策工事 ※並行実施する計画を検討中				2号機R/B上部解体	
フェーシング	1号機海側ヤード	工法検討、設計	Bエリア	Aエリア				
	2号機海側ヤード	工法検討、設計	Dエリア	C,Eエリア				
	3,4号機 海側ヤード	工法検討、設計	Fエリア	Hエリア				

現在